

3. 鳥類調査



タカ科 ハチクマ



タカ科 トビ



タカ科 サシバ



タカ科 クマタカ



タカ科 イヌワシ



タカ科 イヌワシ
(滋賀県でウィングマーカ―を施した若い雌, 2002)



ハヤブサ科 ハヤブサ



ヒタキ科 キビタキ



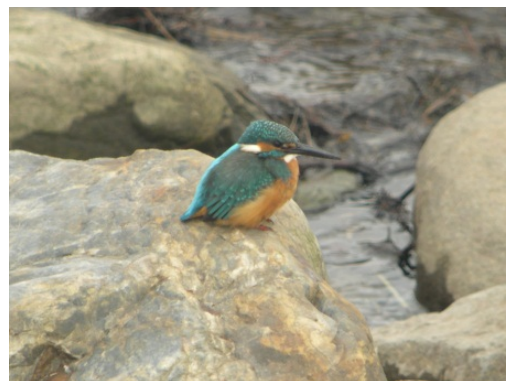
ヒタキ科 オオルリ



ホオジロ科 ホオジロ



ホオジロ科 ノジコ



カワセミ科 カワセミ

写真協力

本田 智明 桑原 和寿

1) 調査目的・背景

水田や魚野川、奥只見湖といった水辺や越後三山や守門岳といった山々など、変化に富んだ自然環境を有する魚沼市には様々な野鳥が生息・飛来している。また、新潟県指定鳥獣保護区が越後三山や湯之谷奥只見湖をはじめ7か所存在する。2011年度に魚沼市自然環境保全事業で植物相調査を実施したところであるが、2012年度から新たな調査分野として魚沼市の鳥類調査を実施することとなった。本調査では鳥獣保護区に指定された地域の中から市民にとって身近な『里山』と呼ばれる場所を中心に選定し、鳥類調査を実施した。また、市民が鳥類や生息する自然環境への興味関心を深めてもらうために、『調査』という位置づけで『探鳥会』を兼ねた形で市民参加型の調査を実施した。

2) 調査地域の位置

調査地は、夏鳥調査については、鳥獣保護区に指定されている成田山（旧小出町青島『見晴らしの湯こまみ』周辺、以下こまみの湯）、御嶽山（旧堀之内町大石 杉ノ入沢）、奥只見湖（旧湯之谷村銀山平温泉周辺）の3か所に加え駒の湯山荘の周辺の調査を実施した。冬鳥調査については、旧小出町の青島と大浦新田を中心とした魚野川周辺の調査を実施した。

調査地域、ルート（太線表記）は以下に示す。

(1) 杉ノ入沢

旧堀之内町大石に位置する御嶽山に程近い地域である。東経138度56分、北緯37度13分に位置し、杉林に囲まれた沢沿いの道を踏査した。

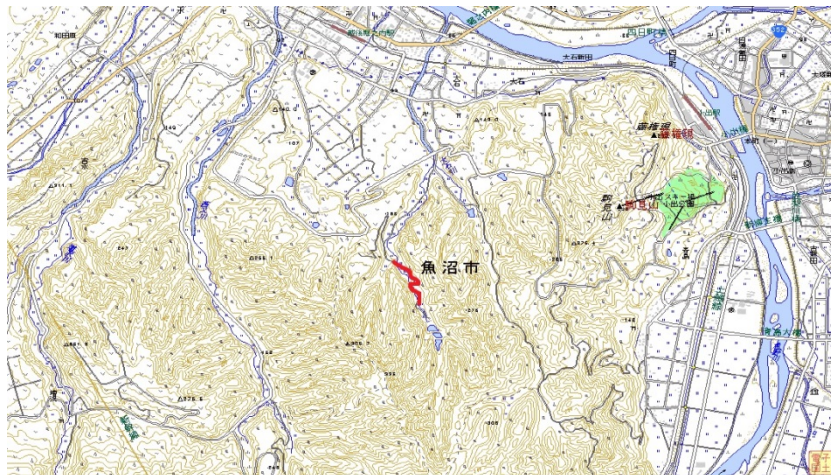


図3-1 杉ノ入沢周辺（縮尺1：18,000）

(2) こまみの湯周辺

旧小出町青島にある成田山付近にある駒見山を踏査した。東経138度57分、北緯37度13分に位置し、周辺には小出スキー場や見晴らしの湯こまみが隣接する。調査ルート付近には雑木林が多く、水田や養鯉池が点在している。



図3-2 こまみの湯周辺 (縮尺1 : 18,000)

(3) 駒の湯周辺

旧湯之谷村大湯温泉に存在し、東経139度05分北緯37度09分付近に位置し、西には長瀬沢、北には灰ノ又沢が流れている。佐梨川上流沿いの道を踏査し、周辺には雑木林のほか、途中ブナの群落もみられる。

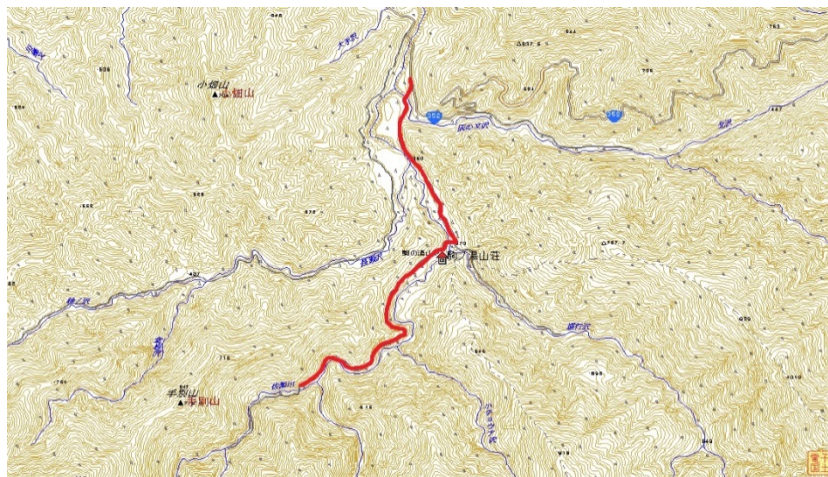


図3-3 駒の湯周辺 (縮尺1 : 18,000)

(4) 銀山平周辺

旧湯之谷村銀山平温泉の鳥獣保護区指定の奥只見湖の西側に存在する。東経139度08分、北緯37度08分付近に位置し、120m先に完全禁漁区の川として知られる北ノ又川が流れている。調査ルートは遊歩道沿いに坪倉沢の途中まで踏査した。

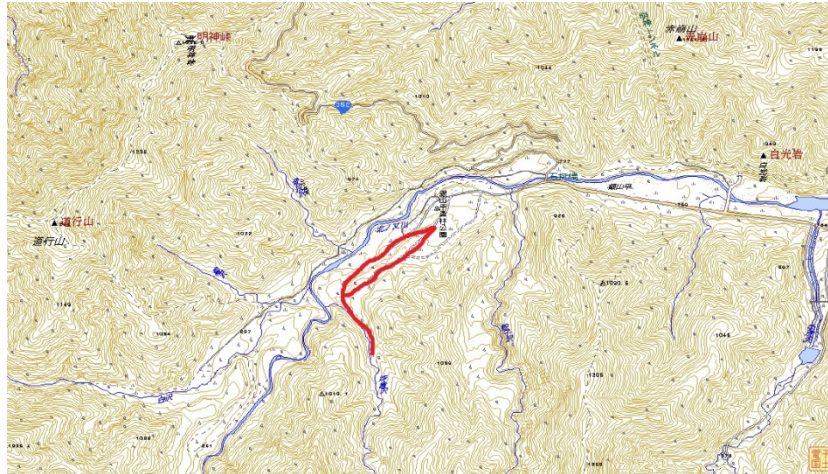


図 3-4 銀山平周辺 (縮尺 1 : 18,000)

(5) 魚野川周辺

旧小出町の大浦新田付近 (a地点)、新柳生橋 (b地点) の主に2ヶ所を中心定点観察を行った。大浦新田は東経138度11分、北緯37度11分付近に位置し、梅田養魚場周辺での観察を行った。新柳生橋は、東経138度57分、北緯37度13分付近に位置し、橋の上から魚野川周辺の観察を行った。

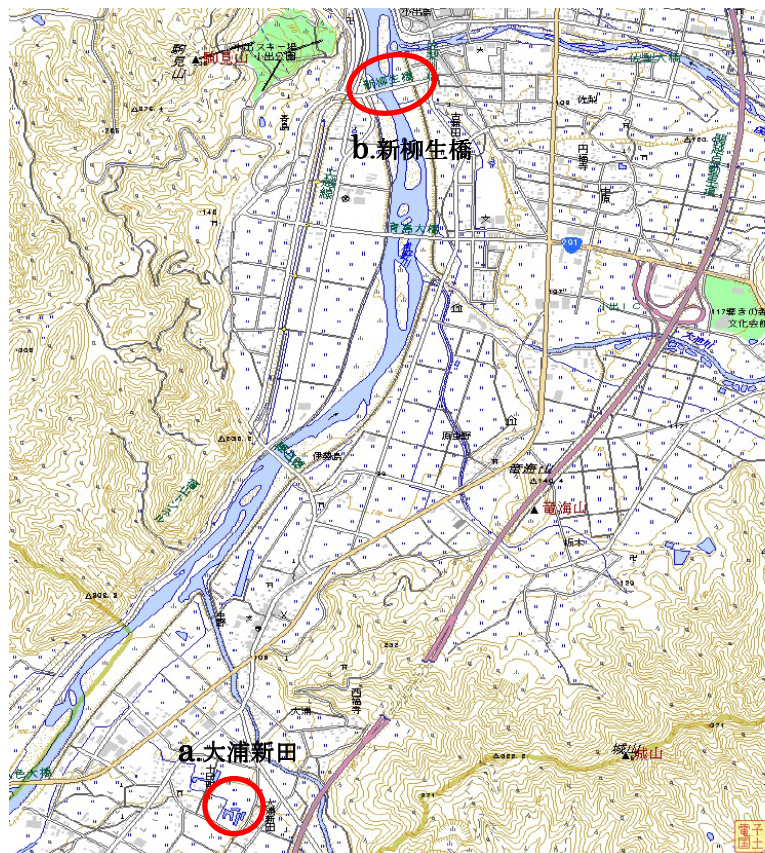


図3-5 魚野川周辺 (縮尺1 : 18,000)

3) 調査方法

本調査の調査員及び探鳥会講師は『小出野鳥の会』から協力を得た。各探鳥会に3人を配置し、野鳥の同定や探鳥会での指導を行った。

本調査は他団体の主催、企画と合同での調査についても実施した。杉ノ入沢では魚沼伝習館の青少年育成事業の一貫で、年長～中学生とその保護者を対象にしたバードウォッチング（探鳥会）を実施し、こまみの湯周辺では、毎年小出野鳥の会主催で開催されている探鳥会と合同で実施した。その他探鳥会は開催日ごとに市報で参加者を募集し開催した。

調査期間は夏鳥・留鳥の繁殖時期に値する5月から6月、また冬鳥・留鳥の越冬時期の計5回実施した。夏鳥調査は早朝6時00分から9時30分間の約3時間、冬鳥調査は9時00から12時00分の約3時間行った。

調査方法は予め指定したルートを踏査し、目視と鳴き声で同定を行った。また調査は各調査地につき1回とした。

なお、本調査は、夜行性鳥類（フクロウ、ヨタカ等）、タカの渡りに関する調査は含まないものとする。

鳥類調査でのボランティア登録数は9人であり、市報での募集、他団体の主催、企画の探鳥会と合同での調査を含む参加人数は延べ84人であった。

各調査日時、調査員及び探鳥会参加人数は以下のとおりである。

(1) 杉ノ入沢

5月13日（日）6:00～9:00 調査員：深沢 和基、柳瀬 昭彦、佐藤 武
探鳥会参加人数：19人（魚沼伝習館『うおぬまわくわくキッズ』合同）

(2) こまみの湯周辺

5月20日（日）6:00～9:00 調査員：桑原 和寿、柳瀬 昭彦、佐藤 武
探鳥会参加人数：30人（小出野鳥の会主催『春の探鳥会』合同）

(3) 駒の湯周辺

6月17日（日）6:30～9:30 調査員：桑原 和寿、柳瀬 昭彦、角屋 禮士
探鳥会参加人数：11人

(4) 银山平周辺

6月24日（日）6:40～9:30 調査員：桑原 和寿、柳瀬 昭彦、角屋 禮士
探鳥会参加人数：15人

(5) 魚野川周辺

2月17日（日）9:00～12:00 調査員：桑原 和寿、柳瀬 昭彦、角屋 禮士
探鳥会参加人数：9人

4) 調査結果

(1) 鳥類確認種数

本調査での確認種数は、杉ノ入沢21科31種、こまみの湯周辺21科34種、駒の湯周辺17科29種、銀山平周辺16科24種、魚野川周辺14科24種で、合計31科65種であった。調査結果は、別表2012年度調査鳥類目録に示す。目録の科名、種名、学名及び並び順は『日本鳥類目録改訂第7版掲載鳥類リスト』（日本鳥学会 2012年）によった。

また、参考資料として2012年度の調査結果を含む『魚沼市鳥類目録』（著編：柳瀬昭彦）を掲載した。

(2) 確認された絶滅危惧種

本調査で確認された絶滅危惧種は新潟県、環境省ともに準絶滅危惧種指定のミサゴ科 ミサゴ *Pandion haliaetus*、タカ科 ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*、新潟県絶滅危惧種Ⅰ類、環境省絶滅危惧種ⅠB類指定のタカ科 クマタカ *Spizaetus nipalensis*、イヌワシ *Aquila chrysaetos*、新潟県準絶滅危惧種、環境省絶滅危惧種Ⅱ類指定のハヤブサ科 ハヤブサ *Falco peregrinus*、新潟県準絶滅危惧種、環境省絶滅危惧種Ⅱ類指定のサンショウクイ科 サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus*、新潟県準絶滅危惧種指定のカササギヒタキ科 サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*、新潟県絶滅危惧Ⅱ類、環境省絶滅危惧種ⅠA類指定のモズ科 チゴモズ *Lanius tigrinus*、新潟県準絶滅危惧種指定のヒタキ科 コサメビタキ *Muscicapa dauurica*、新潟県、環境省ともに準絶滅危惧種指定のホオジロ科 ノジコ *Emberiza splhurata*の8科10種であった。

5) 2012年度の鳥類調査結果の評価と今後の展望

小出野鳥の会 柳瀬昭彦

平成24年(2012年)、魚沼市内の里山、里地と河川で観察された鳥類は127種である。種数については、魚沼市で本格的に野鳥の調査が始まった1970年代と比較しても大きな変動はない。しかし、その内容を検討すると、この40年間に激減または絶滅したと思われる種がいくつかあり、その一方、新たに生息が確認されるようになった種や個体数が増加している種もある。

昭和20年代から昭和30年代にかけて、市内でごく普通に観察された種のうち、田地やヨシの繁る湿地に生息していたヒクイナ(方名でクイナ、あるいはカンカン)は全く姿がみられなくなり、ヨシゴイ(方名ウマヒキドリ)の観察例もなくなってきた。それに対して、近年カワウの飛来数が激増し、ついに奥只見湖で営巣するのが見られるようになり、河川ではダイサギの観察される数が多くなっている。ハシブトガラスもその生息数がハシボソガラスをしのぐようになった。

詳細にみるとコアジサシなど、この他にも水辺に生息する種を中心にいくつかの種数の変化がみられるが、その原因は耕地整理や河川改修による野鳥の生息環境の変化や農薬の散布に帰せられる。

里山では、林業の衰退によって杉林の手入れが行われなくなった結果として林内での生息を好むキビタキの観察数が増加傾向にある。

里山での個体数の減少種や絶滅種もある。餌の昆虫類が発生する夏の夜、里地でも聞かれたヨタカは激減したし、ブナの巨木林がパルプ材として大量に伐採されたことで魚沼市内のブツポウソウが姿を消し、声の仏法僧として親しまれてきたコノハズクも激減している。

もっとも、こうした種の個体数の減少は、ひとり繁殖地としての魚沼市の自然環境の劣化だけに帰因するものでなく、越冬地としての東南アジアの熱帯林の減少傾向も作用しているとみられる。

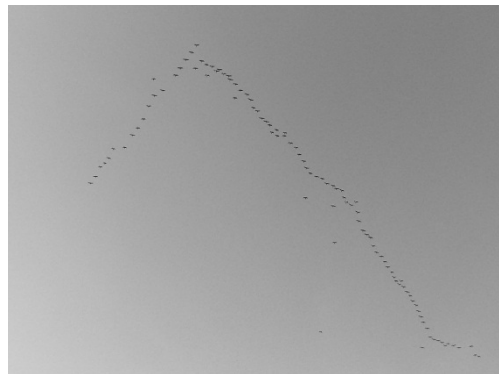


図3-6 ウ科 カワウ
飛翔の様子(約100羽の群)
写真提供: 桑原 和寿



図3-7 モズ科 チゴモズ
写真提供: 桑原 和寿

魚沼地域で特に保護対策の重要かつ緊急を要する種として天然記念物のイヌワシがあげられる。越後山脈はこのレッドデータブックの中でも特別に注目されるイヌワシの生息数の多い地区として知られる。日本イヌワシ研究会の調査によれば、その繁殖成功率は年ごとに低下しているが奥只見地区など、林道からその飛翔がみられるのは貴重である。近親交配による種の劣化が心配されるが、2002年、滋賀県でウイング・マーカーを施した若い雌個体が、2003年、雄と推定される個体とペアで共同採餌、ディスプレイする様子が観察されたのは明るい話題である。県内最大規模の湯之谷・奥只見湖をはじめとする鳥獣保護区の維持管理はイヌワシの繁殖上からも極めて重要である。



図3-8 タカ科 イヌワシ
ウイングマーカーを施した雌
写真提供：本田 智明

「レッドデータブックにいがた」に選定されているノジコは本州中部・北部で繁殖しているが、その分布は局地的で、魚沼地域は特に生息密度の高い種であり、魚沼市を代表する夏鳥でもある。市内東部の丘陵帯は特別に生息数の多い地域とみられることから、今後、調査の行き届いていない広神地域や守門地域での調査が望まれる。



図3-9 ホオジロ科 ノジコ
写真提供：桑原 和寿

冬の里山は雪に覆われるため、地上採餌をする鳥類は暖地へ移動し、樹幹で餌をとるキツキ類や木の実に群れるカラ類が観察の主な対象となる。

一方、河川では11月15日からの狩猟解禁とともにカモ類を中心に銃声が聞かれない湖沼や、魚野川の成田山鳥獣保護区の青島大橋から只見線の四日町鉄橋間に集まるようになる。そのため、夏の繁殖期の約2倍の種数が観察される。中でも個体数ではカルガモがぬきんでて多く数百羽が岸辺に群れる。カモ類が突然、上空を乱舞することがある。上流へ向かって天然記念物のオジロワシが飛来した時やハヤブサなどの猛禽類が飛翔する時である。



図3-10 タカ科 オオタカ
魚野川でカモをねらう
写真提供：桑原 和寿

このような鳥類にとどまらぬ生物の多様性に富んだ地域を保護し、後世に伝えてゆくために、調査結果が得られたすぐれた野鳥生息地域を選

定し、市民に限らず、県内外からの来訪者に身近な里山の豊かさを学習する機会を提供することが重要といえよう。

まず、市内の鳥獣保護区を訪れ、その自然の豊かさに気づくことに始まって、それをどう守り、さらに愛することにどうつなげてゆくかの工夫が大切であろう。



図3-11 カモ科 オシドリ
魚野川にて
写真提供：桑原 和寿

6) 参考文献

- ・魚沼市市民課環境対策室 編 2012年 『魚沼市植物相調査 中間報告書
～自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査～』 魚沼市
- ・叶内拓哉 ほか 1998年 『山溪ハンディ図鑑 日本の野鳥』 山と溪谷社
- ・叶内拓哉 2006年 『野鳥と木の実ハンドブック』 文一総合出版
- ・叶内拓哉 2008年 『絵解きで野鳥が識別出来る本』 文一総合出版
- ・富永弘 編著 2007年 『原虫野湿原の自然 ―植物、野鳥、水生動物等の観察―』
小出の歴史資料を刊行する会
- ・柳瀬昭彦 編 2011年～「小出野鳥の会だより」 No249～No270
- ・新潟県環境生活部環境企画課 編 2001年 『レッドデータブックにいがた』
新潟県環境生活部環境企画課
- ・北魚沼地区理科教育センター 1999年 『見に行こう身近な自然 北魚沼自然観察ガイド』
運営協議会長 渡辺俊雄 ほか
- ・日本鳥学会 2012年 『日本鳥類目録改訂第7版掲載鳥類リスト』 日本鳥学会

2012年度調査鳥類目録

合計確認種数		31科65種		調査地					
				◎	姿が確認できた種				
				○	声だけが確認できた種				
No	科名	種名	学名	調査地					
				杉ノ入沢 5月13日	こまみの湯 5月20日	駒の湯 6月17日	銀山平 6月24日	魚野川 2月17日	
1	カモ科	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>					◎	
2		マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>					◎	
3		カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	◎	◎			◎	
4		コガモ	<i>Anas crecca</i>					◎	
5		キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>					◎	
6		ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>					◎	
7		カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>					◎	
8	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>					◎	
9	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	◎	◎	◎			
10	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>		◎			◎	
11	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>					◎	
12		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>					◎	
13	カッコウ科	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>				○		
14		ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>			○			
15		ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>			◎	○		
16	アマツバメ科	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	◎					
17	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>					◎	
18	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>				◎		
19	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		◎	◎	◎		
20		トビ	<i>Milvus migrans</i>	◎	◎		◎	◎	
21		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>				◎	◎	
22		サンバ	<i>Butastur indicus</i>	○	◎				
23		クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i>			◎	◎		
24	イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>				◎			
25	キツツキ科	コゲラ	<i>Picooides kizuki</i>	◎	◎	◎	◎		
26		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>					◎	
27		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		○				
28	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnuculus</i>	◎				◎	
29		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	◎					
30	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		◎	○			
31	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	◎					
32	モズ科	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>		◎				
33		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>				◎		
34	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	◎		◎			
35		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>					◎	
36		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	◎	◎	◎	○	◎	
37	シジュウカラ科	ヒガラ	<i>Parus ater</i>			○			
38		ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	◎	◎				
39		シジュウカラ	<i>Parus major</i>	◎	◎	○			
40	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	◎					
41	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	◎	◎	◎	◎		
42		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>		◎	◎			
43	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	◎	◎	◎	◎	◎	
44	ウグイス科	ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	○	◎	○			
45		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	◎	○		
46	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	◎	◎				
47	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>		◎	◎	○		
48	ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		◎				
49		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	◎	○	○			
50	ムクドリ科	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>		◎				
51		ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	◎			◎		
52	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>				○	◎	
53	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	◎	○	○			
54		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	◎	○	○		
55		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	◎	◎	◎	◎		
56		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	◎	◎				
57	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	◎	◎	◎		◎	
58		ニューナイスズメ	<i>passer rutilans</i>				◎		
59	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		◎	◎	◎		
60		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	◎	◎	◎	◎	◎	
61		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		◎			◎	
62	アトリ科	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	◎	◎	◎			
63		イカル	<i>Eophona personata</i>			○			
64	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza ciodes</i>	◎	◎	◎	◎	◎	
65		ノジロ	<i>Emberiza sphenura</i>	○	◎	○	◎		
◎姿が確認出来た種				26種	30種	18種	17種	24種	
○声のみ確認出来た種				5種	4種	11種	7種	0種	
合計				31種	34種	29種	24種	24種	